

# 就職から現在まで日々さまざまな刺激があり 一般ホテルではできない実務体験を楽しむ

(株)GHP  
課長 鈴木英代氏

## 学生時代から興味をもっていた レジャーホテル業界に就職

——鈴木さんは新卒でGHPに入社されたということですが、レジャーホテル業界を目指されたきっかけは。

**鈴木** 一般のホテルとは異なる内装デザインやさまざまな演出など、非日常空間を体験できるレジャーホテルという業態に学生の頃から興味がありました。当時は“就職氷河期”といわれた時代で、たまたまGHPが新卒を募集しているのを見て応募したのです。私は大学時代、中央大学相撲部のマネージャーをしていましたが、面接のときに「相撲部のマネージャーならホテル業に向いている」と言われたことを今でも覚えています。

——入社後の業務としては。

**鈴木** 研修期間が終わるとすぐに現場に入ることになり、ルーム清掃やフロント業務、キッチンなどを実地で体験しました。大阪・難波の1日4～5回転するような繁盛ホテルだったのですが、さまざまな業務を先輩スタッフに丁寧に教えていただき、多忙ななかでも楽しくコミュニケーションをとりながら、日々の業務に取り組みました。

ホテルでは半年ほど勤務し、その後、東京の本社に異動になりました。本社では当初、ポップづくりやイベントの手伝いといった現場の後方支援のような業務がメインでしたが、繁忙期や人手が足りないときなどに緊急でホテルの現場に入ることもありました。新規出店やリニューアルも多かったですから、その度に新しい業務が発生するというイメージで、

それがやりがいになっていました。

## デザイナーの枠を超え、 ホテルづくりを支えるマルチプレイヤー

——現在は「社内デザイナー」としても活躍されていますが、そのきっかけは。

**鈴木** もともと本社業務の一環として、ホテルのリニューアルの際などに、設計・デザインの先生と現場スタッフをつなぐ橋渡しの役割を担っていました。何度かそういう仕事を経験したある日、上司から「自分でやってみたらどう？」と言われ、私としても興味があったので見よう見まねではじめたのがきっかけです。

最初は、外部のデザイナーに発注するには予算が足りない物件の小規模リニューアルが中心でした。私はデザイナーとしての専門的な勉強はしておらず、図面もかけないので、写真や資料をもとに我流のやり方で指示を出し、クロスの貼り替えや什器、備品、アメニティの刷新などを手掛けました。やがてホテル全体のコンセプトワークやブランディングに関わるなど、業務範囲を広げていきました。

現在は各ホテルのブランディングなどを担当するほか、プライベートブランドのオリジナルアメニティのデザインをはじめ、コンセプト立案や企画、マーケティングまで幅広く手がけています。——ホテルをリニューアルするうえでのポイントは。

**鈴木** お客さまに対してどれだけインパクトを与えられるかを重視しています。客室内はもちろん、エレベーターを降りてすぐ目に入る廊下などの共用部のデザインも重要となります。また、近年は女



子会需要がふえているので、写真映えを意識したインテリアや備品、オブジェなども採り入れるようにしています。

ただし、限られた予算のなかで最大限の効果を追求するため、低コストでいかにインパクトを与えられるかがポイントとなります。予算配分の最適化と投資効果を考慮して、外観やロビーは外部の設計デザイナーに依頼し、客室内はホテルのコンセプトに合わせながら、私がワンポイントで壁紙や照明を刷新することで、限られたコストを効果的に活用するケースもあります。

——ホテルづくりを支えるマルチプレイヤーとして活躍されていますが、信頼も厚いようですね。

**鈴木** とくとき「丸投げ」されるような感じで苦勞することもありますが(笑)、確かに信頼していただいていると感じることは多いです。もちろん私自身、他社ホテルや他業種の商業施設を見学に行くなど、日頃から勉強するようにしています。

## 長島会長就任で組織が大きく刷新 SDGsへの取り組みでモチベ向上

——このほか、取り組まれている業務としては。

**鈴木** 長島が会長に就任した際に、企業理念や会社全体のブランディングを刷新することになり、私も携わらせてい



「社内デザイナー」としてローコストでホテル空間のブラッシュアップを図る



いただきました。そうした関係から、長島のサポート的な役割を担うこともあります。たとえば、当社の企業理念にある「まじめにラブホやってます」というコピーも私が考えました。

——レジャーホテル運営会社の企業理念として、非常に高いインパクトがあるコピーだと思います。

**鈴木** おかげさまで、あの企業理念を掲げた直後からホームページを通じて問い合わせがふえて、採用や人材確保にも大きく貢献することができました。「みんなで力を合わせていこう」という組織の一体感が、会長の刷新によって強まったように感じています。

昨今の働き方改革など、時代の変化への対応も重要です。私が入社した頃は、女性店長はほとんどいませんでしたし、運営現場では個々のマンパワーに依存する傾向が強かったのですが、いまは女性店長の数もふえ、全体の離職率も大きく下がるなど、いい方向に変化していると感じます。

——SDGsなど、レジャーホテル運営企業としてかなりユニークな取り組みもされています。

**鈴木** SDGsに関しては当初、社内でも「できるのか」「やる意味があるのか」といった声もあったのですが、いくつかの課題ごとにチームに分かれて活動するなかで、一つひとつの社会課題に対して何ができるかを個人々が自主的に考えるようになりました。また、店舗や役職の



世界観を大切に、オリジナルアメニティのデザインなども手掛ける



セクシャルマイノリティ支援やパープルリボン運動など、社会の課題に向けた活動にも注力



枠を超えてさまざまな人がチームを構成することで、普段はあまり接点がないような人と話す機会などもあり、コミュニケーションの輪が広がっています。

私自身もこれまで、SDGs活動の一環としてエイズに対する理解を広げるレッドリボン運動や、性暴力撲滅のためのパープルリボン運動などに携わってきました。レジャーホテル業界で働く私たちだからこそ果たせる役割や社会への貢献について、改めて見つめ直す機会となりました。

——鈴木さんご自身の今後の目標は。

**鈴木** レジャーホテルが大好きなので、業界に対する認識をより前向きなものとし、その魅力や社会的な価値を多くの方に知っていただきたいと考えてい

ます。一方で、当社はレジャーホテル以外にもさまざまな新規事業を手掛けていて、私自身、提案した新規事業を採用していただき、その本格的な事業化に向けて取り組んでいる最中です。

——最後に、この仕事に対する“やりがい”を教えてください。

**鈴木** 新卒採用から現在まで続けてこられたのは、日々さまざまな刺激があり、自分自身が楽しんでこられたからだと思います。就職活動の際には一般のホテルも受けましたが、一般のホテルではここまでやりがいのある仕事は任されなかったかもしれません。ですから、レジャーホテル業界に就職できたのは、私にとっては“天職”だったと思っています。——本日はありがとうございました。